

平成二十一年度

総合問題

(文学科 日本語日本文学専攻)

9:30
～
11:00

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子、解答用紙に手を触れてはいけません。
- 2 この問題冊子は8ページで、解答用紙は2枚あります。
- 3 試験開始の合図があったら、まずページ数、枚数を確認し(足りない場合は、手を挙げて監督者に知らせること)、全部の解答用紙に受験番号を記入してください。
- 4 試験中に、印刷の不鮮明な箇所やページの脱落などに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答は、解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 6 この問題冊子にある余白は、下書きなどに利用してかまいません。
- 7 試験終了後、問題冊子と受験票は持ち帰ってください。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【省略】

【省略】

(杉本苑子『二条院ノ讃岐』より。ただし、一部表記を改めたところがある。)

【中央公論社、一九八二年】

- 注1 法金剛院……注4の待賢門院の建立した寺院。
- 注2 女房……天皇の后きさきなどに仕える上級の侍女。女房はすべて父兄の官職名などで呼ばれていた。
- 注3 美濃ノ介……美濃の国司の二等官。長官である守を補佐する職。
- 注4 待賢門院……鳥羽上皇の后璋子。鳥羽天皇が讓位した後、この院号をもらった。
- 注5 頼政……十二世紀の源氏の武將。和歌で三位に上ったと伝える。以仁王を擁して挙兵し、戦死したが、源頼朝たちの挙兵が続くことになった。
- 注6 公卿、殿上人……一般に三位以上を公卿、四、五位で宮中の殿上の間に上がることを許された人を殿上人といった。
- 注7 俊恵法印……東大寺の僧、歌人。『方丈記』を書いた鴨長明の師。

盈…………満ちる。

韓愈…………唐代の官僚、詩人。

歆華…………娛樂やぜいたく。

咎責…………問責。糾弾。

塞…………満ちる。

両儀…………天と地のことで、世界全体をたとえている。

(1) ———線部Eには「詩は古人の意を踏襲するを悪むも」という一文が入ります。一マスに一字ずつ埋めて、もとの白文に戻しなさい。

(2) ———線部「亦」「蓋」の送り仮名を含めた読みをそれぞれ記しなさい（現代仮名遣いでもよい）。

(3) ———線部Fを現代日本語に訳しなさい。

(4) ———線部GとHはほぼ同じ内容を述べていながら、Hのほうが優れた表現とみなされています。どのような点が優れているか、GとHの語句を比較しながらわかりやすく説明しなさい。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【省略】

【省略】

(坪内祐三『慶応三年生まれ 七人の旋毛曲つむじまがり 漱石・外骨・熊楠・露伴・子規
・紅葉・緑雨とその時代』より。ただし、一部表記を改めたところがある。)

【株式会社マガジンハウス、二〇〇一年、399〜402ページ】

注1 子規……正岡子規。なお、「子規」はホトトギスの異名。

注2 象狗……未詳。

注3 松蘿玉液……子規の隨筆。引用部分は講談社版『子規全集』を参照した。

注4 勁敵……強敵。

注5 迸発……ほとばしり出る。

問一 〓線部①～④の語句について、それぞれの意味にふさわしい漢字二字の熟語を答えなさい。(②は「辛抱」以外の語で答えること)。

問二 〓線部A「秘かな決意」とはどのような決意か、文中の語を使って説明しなさい。

問三 〓線部の句について、

(1) なぜ漱石はこの句を書き添えたのか、あなたの考えを述べなさい。

(2) この句によく似た以下のア～ウの句でそれぞれの性格が語られることがある歴史上の人物名を答えなさい。

ア 鳴かぬなら鳴くまで待とうほととぎす

イ 鳴かぬなら殺してしまえほととぎす

ウ 鳴かぬなら鳴かせてみようほととぎす

問四 〓線部B「七人男」とは、慶応三年生まれの、正岡子規、尾崎紅葉、斎藤緑雨、夏目漱石、南方熊楠、幸田露伴、宮武外骨の七人です。

(1) この七人が生まれた慶応三年(一八六七年)に起きた出来事を一つ挙げ、日本史の流れの中でどんな年であったかを説明しなさい。

(2) 漱石を除く六人のうち、小説家一人の名前を挙げ、作品名とともに答えなさい。

問五 〓線部C「眼の人」という言葉を、筆者はどんな意味で使っているか、十字以内で説明しなさい。

問六 〓線部D「二人の視線はそれぞれ異なる」とありますが、その日の二人の行動にも言及して、違いを八十字以内で説明しなさい。

問七 〓線部E、Fを、現代語でわかりやすく言い換えなさい。

問八 この後、漱石は地方の中学校の教員をすることになりますが、その経験をもとにして書かれた小説の題名を答えなさい。